東大阪
発行所
株式会社 東大阪新聞社
第6954号
〒577-0802
東大阪市小阪本町 1-1-7
エフエスビル２Ｆ
TEL 06-6720-4601
FAX 06-6720-4603
八尾柏原支社
〒581-0013
八尾市山本町南 6-2-29
TEL 072-926-5134
FAX 072-921-6893
東大阪・八尾
柏原の地域紙

グリコのおもちゃデザイナー 宮本順三記念館

「小さなことはいいことだ」ワールド

豆玩舎おまけや ZUNZO 開館20周年

近鉄八戸ノ里駅の改札を左に出るとすぐ左手、黄色の看板が目に入る。山三エイトビル3階が宮本順三記念館である。「おまけやズンゾ」（豆玩舎ZUNZO）の表示もある。

「おまけ」と言えばグリコを連想するように、宮本順三（1915～2004）は洋画家であり「グリコ」のおまけのデザイナーでもあった。幼少のころから生涯にわたり蒐集した郷土玩具や人形などとグリコのおもちゃなど約5、000点が展示されている。まさに〝宮本順三私設博物館〟だ。

宮本順三記念館　豆玩舎 ZUNZO
館長　樋口須賀子
NPO法人おまけ文化の会
開館時間：10～17時
休館日：月曜日
入館料：大人 500 円、高大生 300 円、
4 歳から中学生 200 円
東大阪市下小阪 5-1-21 山三エイトビル 3 階
TEL& FAX 06-6725-2545
E-mail: omake@cream.plala.or.jp
HP http://www.omakeya-zunzo.com

記念館は1998年4月、宮本順三の83歳誕生日に創設・開館し、今年4月に20周年を祝った。小さなおもちゃを作り続け、祭りを描き続けた画家宮本順三の業績と資料の集積と啓蒙活動を展開する樋口須賀子館長（75）を訪ねた。

「絵やおもちゃを通じて子どもたちがゆったりと育ってほしいという父の思いに共感して記念館を支援しながら手広く活動しているのがNPO法人おまけ文化の会。

樋口須賀子さんは1943年、順三・賀子の長女として東大阪市下小阪5丁目生まれ。1965年同志社大学英文科卒後、子どもの言語教育・物語活動を20年間続け1988年から順三の会社で出版などを行う。著書に「小さいことはいいことだ～グリコおもちゃデザイナー物語～」（アットワークス）がある。

順三は大阪生まれ、天王寺中学校（現高校）で美術部に属して絵を描いていた。彦根高等商業学校（現滋賀大学）に江崎利一社長から戻ってこないかと要請を受けたが、おまけを考案し製造する業者としてグリコとの取り引きを始めた。

順三は彦根高商卒業前にロシア、中国、朝鮮、韓国へと船旅をし、郷土玩具などを大量に集めて子供会では告課おまけ係に勤務することになった。戦後、軍需工場が復活した折、下宿を引き払うとき荷物の大半が郷土玩具だった。絵についてのエピソードとしてアルタミラ洞窟の写真を見てショックを受け、岩窟仏や高松塚などを見ては「人間は初めから芸術を持っていた」と考えていたようだ。50代後半に胃の3分の2を切除した時に、友人が「世界のまつり」のカレンダーを持ってきてくれたので「お父さん面白いよ。早く元気になって絵を描いたら、100から200号のものを」と須賀子さんが提案した。絵の好きな順三が遺した3部作は「自分をモデルに」「蒙古襲来」に加えて、なぜか真っ白に塗りつぶしたキャンバスだった。これが最後の絵になった。

順三の口癖は「小さいことはいいことだ」である。「父の夢はおもちゃ館をつくること」でした」と須賀子さんは回顧する。「いつも前向きな父でした。僕の人生おまけみたいなもので、決して暗くなりませんでした。亡くなる4日前までここで子どもたちと絵を描いていました」。

絵画や工作、親子茶道教室などの他にも、手づくりは知恵を磨くという思いのもとにできた「デザインを楽しむコマ〝サブローごま〟づくりは回を重ねる人気講座である。

「サブローごま」に触れておかねばならない。生活用品を販売していた今里時代のお客様とのなく「大供会」で情報交換をしていた。特に

「駕籠（かご）に乗る人担ぐ人、そのまた草鞋（わらじ）を作る人」の例えではないが、様々なメーカーの周辺には多くの部品メーカーが存在する。協力工場や下請け企業と呼ばれる製造工場であり、機械加工・プレス加工・板金加工業者等だ。更には金属部品に強度を与えるための熱処理加工や、部品の表面処理・錆止めのための塗装加工等、メーカーを支えている様々な企業がある。

ISO9001（品質マネジメントシステム）は製造業が主体の資格だったが、中堅・大手企業のみならず、昨今は少人数の様々な業者が資格取得に動く時代になった。日本国内では5万社超の企業がISO9001を取得している。日本人の持つ気質、生来の几帳面さ、周囲との調和を大事にするなどの下地がISO9001の導入をスムーズにしていると言えよう。

ISO14001（環境マネジメントシステム）の資格取得には建設業者や産業廃棄物処理業者が積極的だ。もちろん近隣に対して環境対応をアピールする姿勢も大きいだろうが、発注サイドが公共事業入札にISO14001取得業者を優先する姿勢が大きく影響している。大手スーパーマーケットの中には「環境宣言」というお題目を掲げて、ISO14001と類似した目標項目を設定し環境整備・改善を推進している企業もある。

古くからのスローガン5S（整理・整頓・清掃・清潔・躾）は、職場に限らず多くの日本人にとって基本動作と言えよう。整理・整頓・清掃を励行していれば、多額の経費を掛けて資格取得する必要はない。と言ってしまっては身も蓋もないが、かような状況のなか、予算少々でISO14001に匹敵する環境マネジメントシステムがある。

O-KES（大阪・環境マネジメントシステム・スタンダード）は、環境への負荷を管理・軽減するとともに環境経営の推進にも有効な仕組みだ。環境問題に取り組み始めた段階を「ステップ1」、ISO14001と同様な目標項目を設定したワンランク上の「ステップ2」が用意されている。必要経費は初回審査費用・標準コンサルト費用・確認審査費用合計、ステップ1は13万円、ステップ2は38万円とISOに比べれば超リーズナブルな価格設定だ。

資格取得スタートからO-KES取得までのタイムスケジュールは、標準的なケースで8～9カ月ほどだ。

O-KESシリーズ⑥

大手顧客がO-KESを認知する時代が来た

早くから環境問題に取り組む森嶋勲社長

創立50周年 熱処理加工の老舗

理化工業株式会社

代表取締役 森嶋 勲さん

八尾市の理化工業株式会社（森嶋勲社長）は2019年に創立50周年を迎える熱処理加工の老舗企業だ。社員は73人、自動車・自転車部品、建築部品、機械部品などの熱処理加工・塗装加工・表面処理加工を行っている。2013年にはタイにて熱処理合弁事業を開始している。

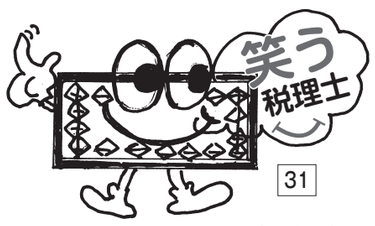
2004年にISO9001の認証取得。同年にO-KESステップ1を取得した。顧客からの環境状況チェックがキッカケだった。量30%削減、他も併せて総額370万円の削減効果を実現できた。2012年にステップ2を大手の自転車部品メーカー、自動車部品メーカーはO-KESによる環境経営に理解を示している。導入の最大の効果は、大手顧客にO-KESを認知してもらったことだろう。

塗料・シンナーの使用（小川秀人）

理化工業株式会社
代表取締役社長　森嶋 勲
八尾市西弓削2-6
☎072-920-3044

NPO法人グラウンドワーク八尾 O-KES環境機構
八尾本町5-13　グランフェル八尾301
☎072-991-8878

消費税の軽減税率はややこしい②



税理士 上西　知

平成31年10月より消費税が10%になります。安倍総理が改正の準備の指示をしたため、いよいよ10%だなと世間がなってきております。前回は、食料品は8%に据え置かれるが、外食・ケータリングは10%になるため、コンビニのイートインスペースや、ショッピングセンターのフードコートなど、持ち帰りと、その場で食事の税率が変わるために起こる、ややこしさをお伝えしました。

外食である「食事の提供」とは、テーブル、椅子、カウンター等の飲食設備があるかどうかで判断されると申し上げました。そうなりますと、またまた新たな疑問が湧いてきたりします。

屋台のラーメン屋さんは、どうなるでしょうか。ある屋台のラーメン屋さんはだいたい場所を決めていて、椅子を用意しています。こうなりますと消費税は10%です。しかし、あるラーメン屋さんも場所を決めているのですが、公園のそばで営業しているのです。椅子は用意していません。ラーメンを買いに来るお客様は、公園があるために、ベンチ等に座って食事をするために8%になるのです。つまり飲食設備がないから外食ではないのです。しかし、この公園の使用許可をラーメン屋さんが取っていたとしますと10%になります。ラーメンを食べにくる行為には全く両者に違いがありませんが、税率がかわるのです。それらを考えるとショッピングセンターのフードコートも、他人が用意してくれた飲食設備を利用させても10%となります。

ホテルでの食事は当然10%と理解できると思いますが、その食事をルームサービスにした場合も客室内に椅子・テーブルがあるため10%になっているのです。持ち帰りではないのですね。ルームサービスで食事をしながら、飲み物は客室にある冷蔵庫のものを飲みました。これは単に飲食料品を売っているだけなので、8%になるのです。だんだん無理が生じてきますね。全部10%の方が良くないですか。

女性団体連合会など５団体
八尾市長に要望書手渡す

園児や保護者の不安解消

不祥事のこども園

八尾市の私立認定こども園の不祥事に関わる問題について、八尾市女性団体連合会など5団体（角田禮子会長）の代表が、10月26日正午前、八尾市役所で田中誠太市長と会い「要望書」を提出した。

これに対し田中誠太市長と平野佐織副市長は「当該こども園に通園している園児や保護者の不安解消に努めてもらいたい」と強く要望した。要望書と市のコメント全文は、次の通り。

田中誠太八尾市長（右）に要望書を手渡す角田禮子会長

要望書
５団体会長　角田禮子

過日、八尾市の認定こども園の園児に対する強制わいせつの事件が発生いたしましたことで八尾市、全国に衝撃が走りました。

事件より半年を経過しているにも関わらず、何の解決もされていないことに市民は憤りを感じています。

現在ある認定こども園を早急に休園にして、善後策として山本南保育所など、環境の良好な園を直ちに確保していただきたく要望致します。

園児を確実に受け入れる体制を急ぐ

八尾市のコメント

ご指摘の事件については、今後司法の場において明らかにされていくものと考えておりますが、事件の性質上、認識し、対応してまいりたいと考えております。

子どもたちや保護者のいったところです。

方々にとっては、深刻な影響を与える事態に関しては公表しないでほしいとの保護者の方々からの要請もあり、マスコミ取材については一切拒否するという立場を一貫してきましたので、今回の一連の報道については、このような形で公園を確保することを最優先に、10月1日に、今年度末で廃園を予定している公立保育所のうち、近隣2園のいずれかの施設を活用し、民間園として開園し、子どもたちを確実に受け入れる体制を整えることを決定いたしました。

今後は、速やかに保護者への説明と、運営候補者の選定に取り組んでまいります。

子どもたちが好きな怪獣と並んで人気があるのが妖怪たちの面々だ。

亀井澄夫さん（61）も御多分に漏れず幼少の頃からの妖怪マニアだ。友人の勧めで27歳の折に、「妖怪講座」を神戸の六甲道会館で開催。チラシを配り、口コミでお客を募ったが、思いのほか盛況となり反応が良かったのは意外だった。マスコミの取材を受け、産経新聞主催の「妖怪講座」をカルチャーセンターで開催。またラジオ大阪のカルチャーサロン「妖怪研究所」がプロデュース、句集制作は天羽孔明さん、イラストはなんばきびさんが担当した。制作期間はおよそ5年間。

天羽さんは元歌のイメージを壊さないように歌を作り、似たような妖怪の重複にも留意した。イラスト担当のなんばきびさんは天羽さんの歌の表現と向き合い、元歌を大切にしながら妖怪のイメージを描くことに苦心したと語る。

「百怪一首」（絵札100枚・文字札100枚）は5、184円（税込み）。問い合わせは、日本妖怪研究所（☎06-6634-0251、大阪市浪速区日本橋4-2-15）へ。（小川秀人）

広域

日本妖怪研究所をご存じですか

百人一首の妖怪版

「百怪一首」が大人気！

「百怪一首」を持つ亀井澄夫さん

市制60周年で 功労者表彰

柏原市

柏原市では、市制施行60周年を迎え、11月3日午前10時から市民文化会館リビエールホール（柏原市安堂町1）で記念式典を行った。市政の振興発展に尽力した功労者や地域の安全確保に貢献した人を富宅正浩市長が表彰した。

市長表彰（団体）

いちごクラブ「い・ち・ご」、アーツプロジェクト・イン・おおさか柏原、青谷区自主防災組織、旭小校区8町会合同自主防災組織、旭丘まぶね保育園、アドプト・リバー・原川、アニマルセラピーわおん、いきいき歌体操、石川を美しくする会、いちごクラブ「い・ち・ご」、日本スポーツ吹矢協会オアシス柏原支部、親子広場ドレミファごんちゃん、親と子のための教室運営委員会、お笑い呑気会、介護予防サポーターズ、柏羽藤火災予防協会、かしわ保育園、かしわら泉の輪、柏原おいな～れガイドの会、柏原交通安全協会、柏原国分料飲組合、柏原市明るい選挙推進協議会（以下・柏原市省略）、阪教育大学、大阪教育大学コーラスセッション、大阪府猟友会柏原支部、親子広場ドレミファごんちゃん、親と子のための教室運営委員会、お笑い呑気会、介護予防サポーターズ、柏羽藤火災予防協会、かしわ保育園、かしわら泉の輪、柏原おいな～れガイドの会、柏原交通安全協会、柏原国分料飲組合、柏原市明るい選挙推進協議会、柏原交通安全協会、柏原市明るい選挙推進協議会（以下・柏原市省略）、ディネーター会、歯科医師会、市民歴史クラブ、商工会、少年少女鼓笛隊、身体障害者福祉会、スポーツ少年団指導者協議会、スポーツ推進委員会、青少年健全育成協議会、青少年指導員協議会、青少年リーダー指導者会、赤十字奉仕団、チアダンスクラブHAPPY SMILES、PTA協議会、非常通信協力隊、婦人防火クラブ、文化連盟、母子寡婦福祉会、ボランティア連絡会、民間社会福祉施設連絡会、民生・児童委員協議会、薬剤師会、手話サークル。（敬称略）

楽書楽読帳

夢野悠人

妖しげな月照上人

NHK大河ドラマ「西郷どん」の入水（心中未遂）場面から月照さんについて思うことを2つ。

まずは、尾上菊之助が扮する勤皇僧・月照は、なまめく美しさとイメージしていたのではないでしょうか。

京都で月照と橋本左内らと共に近衛家を通じて朝廷工作に奔走する西郷は、斉彬公の急死に絶望し殉死を企てるも「これまでか」と悟った西郷は錦江湾に船を出し、入水を決意させました。

画面では「ともにまいりもんそ」と西郷の右手が月照の手をにぎりしめ、抱いて海中へ、と言って、二人は決して実にあっさりと浅漬け風味の演出。「おおいに酒を飲んでくれ、これが最後の晩餐だ」と痛飲させ、船頭と従者が眠り込んだすきに飛び込んだ。

もう1つ不思議に思っていたことを菅原文太・半藤一利著「仁義なき幕末維新」（文春文庫）で見つけました。同じような見方をする人がいるものです。

月照が住職をしていた清水寺成就院（非公開文化財特別公開中に）を訪ねながら空想にふけました。

ころでした。

磯田道史著「素顔の西郷隆盛」（新潮新書）で、著者は月照を「容貌はやさしく体も小さく女性みたい、学問や芸事に優れ、梵語が得意で曼荼羅に詳しく、とかく神秘的なのに惹かれて、呪力によって遺志を継ぐのが出家だ」します。

画面では「ともにまいりもんそ」と西郷の右手が月照の手をにぎりしめ、抱いて海中へ、と言って、二人は決して実にあっさりと浅漬け風味の演出。「おおいに酒を飲んでくれ、これが最後の晩餐だ」と痛飲させ、船頭と従者が眠り込んだすきに飛び込んだ。

もう1つ不思議に思っていたことを菅原文太・半藤一利著「仁義なき幕末維新」（文春文庫）で見つけました。同じような見方をする人がいるものです。

月照が住職をしていた清水寺成就院（非公開文化財特別公開中に）を訪ねながら空想にふけました。

なつかしい写真

大阪―奈良間普通（昭和48年以後すべて廃車されました）

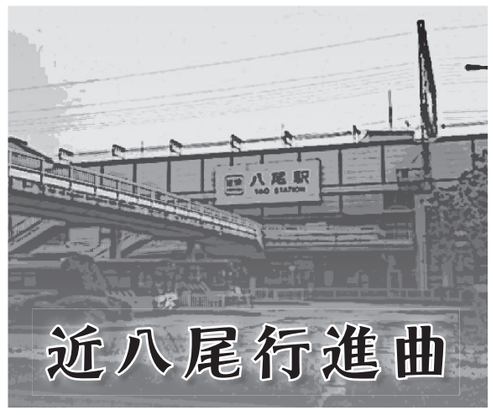
〈写真提供〉読者・坂口　功

撮影時期　昭和33年７月ごろ
撮影場所　近鉄奈良線河内小阪駅

連載小説①

嶋津　亮太

（八尾市在住の小説家）



近八尾行進曲

ひらり、ひらり。風に舞う桜の花びらは、月の明かりを浴びて、小さな海洋生物のように光を放つ。命を宿しているかのように、不規則な軌道を描いて。ひらり、ひらり。桜の木全体が静かに燃えているようで、その光景はそこはかとなく美しい。幻想的な風景には狂気がひそむ。うっとりとした胸騒ぎ。

見上げた月は焼いた林檎にシナモンを振りかけたようで。今考えれば、それは、これからミツルの身に起こる惨劇を物語っていたのかもしれない。

「大丈夫です。俺は本当に、大丈夫です」

頑として断言するミツルは、か細い毛髪を伸ばし、後ろ手に括っている。もやもやと蜃気楼のように浮遊する毛髪は諸行無常の響きあり。エアリーなそれを無で押さえつけるルーパー然とした乳白色の男の表情には不服が滲み溢れている。眉はハの字に下がり、一重瞼の奥の瞳は鈍く光る。僕はミツルがこんなにも酒が好きだとは知らなかった。

「俺ももう30ですよ。それくらいは自己管理できますから」

時計の針は9時に差しかかるところだった。僕は溜息をした。

人間は大きく2種類に分けることができる。酒を飲む人間と酒に飲まれる人間だ。ミツルの場合は疑いもなく後者だ。酒を口にすると人格が変わる。それを初めて目にした時、〝豹変〟という言葉はまさにこのことだと確信した。ぐるりと顔の上下が反転した騙し絵のようで、目は虚ろになり、辺りを睨みつける。ハの字の眉は横一文字。口は右斜め上に歪み、不二屋のペコちゃん人形のように首から上が揺れる。言葉遣いまで変わってくるのだから、本当に人が変わってしまったかのような錯覚に陥る。

「大丈夫ですって。いくら飲んでも、俺は大丈夫です。何度も言いますけど、もう30ですよ。アキさん、少しくらい俺のことを信用してもいいじゃないですか」

半ば怒りながらもミツルは僕に言い放った。確かにミツルのプライベートを干渉する権利はない。

僕はこの街で10坪ほどの土地を借りてささやかな店を開いた。バーである。バーを開いている理由は酒と1枚のカウンターさえあれば商売ができたからだ。出資金は最低限に抑えられる。月々の売り上げで借金を返済しながら細々と生活し、7年が過ぎた。新しい設備に資金を回せるようになったのは最近の話。

ミツルがこの店にやってきたのは店を開いて2年が経った頃だった。

色が白く毛髪の薄いその青年はよれよれのTシャツにみすぼらしい穴の開いたデニム、そして薄汚れた黄色のクロックスという出で立ちであった。開店準備をしていた夕方の4時半頃。ガラス扉の風景にその小汚い青年が現れた。店の外からこちらを眺めている。客かもしれないという僅かばかりの可能性から、店の中から会釈した。するとその男は睨みつけるように目を細めてこちらを覗き込んだ。おそらく外が明るいので店内が見えにくかったのだろう。大分とひいき目に解釈したが、初対面の男にガンつけられた気分は良くなかった。

男は扉を開けて店の中に入ってきた。

「どうも」

僕が声をかけると

「どうも」

と同じように返してきた。次なる言葉を待ったが、男はニヤニヤしてこちらを見ているだけだった。

「どうかしましたか？」

沈黙に我慢を切らした僕が言うと、男は驚いた表情になった。何に対して驚く必要があるのか。

「すみません、ここで働かせてください」

言葉の意味を理解するのにしばらくかかった。男の手にはくしゃくしゃになった履歴書が握られていた。

とりあえず、どういう経緯でこの店を選び、働きたいと思ったのかを聞くためにカウンターのスツールに座ってもらった。普通ならば、バイトは募集していないので」と言って帰らせるのだが、そうさせない何かが彼にはあった。なぜだか分らないが、この時既に、ぼんやりとしたこの薄毛の青年に興味を持ち始めていたのだ。

緊張をほぐすために（彼も、そして僕自身も）飲み物を勧める。

「何か飲みますか？」

つるんとした白い肌に埋められた2つの目が僕に焦点を合わせた。何も言わずに肩をかくかく動かしている（後で気付くことになるのだが、緊張するとこの癖が発動する仕組みになっているらしい）。

目を大きく見開き、それから下顎を前に突き出して男は言った。

「あ、僕はビールでいいです」

この数分間は驚きの連続だった。募集もしていないアルバイトの面接でビールを注文する小汚い男。狂っている。

履歴書には独特の字体で「伊藤充」と書かれていた。左足で書いたとすれば上手に書けた方だが、利き手で書いたとすれば絶望的な景観だった。

この一連の流れに僕は打ちのめされた。僕の知らない価値基準がそこにはいきいきと繁栄していた。

気がつけば、週明けから店に来てもらうことが決まっていた。口の周りをビールの泡で汚したミツルは、桜色の歯茎を見せて笑った。

そう言って、店の扉を開けた。静電気に引き寄せられるかのように浮き上がったまばらな毛髪を手のひらで押さえつけ、淡いブルーのクロスバイクにまたがる。

このまま行かせても大丈夫だろうか。

「今日は飲み過ぎないので」

確認するようにミツルは僕に言った。「だから安心してください」ということなのだろう。

ミツルは酒癖が悪い。そのことで何度も問題を起こしている。店の中では僕がいるのでまだどうにかなるのだが、一旦店を離れると収集がつかない。大声で騒いだり、テーブルの上に靴でのぼったり、カウンターにゲロを吐いたり、酔い潰れて数年前からその場所にある猫除けの水を飲んだりと散々である。最終的には号泣するので、周りの連中が面白がって酒を煽るのだ。責任のない立場の人間からすればそれは楽しいだろう。だが、自転車でこけて擦り傷だらけの姿や、酔って暴言を吐き散らすみっともない姿を何度も見てきた。

この日は近鉄八尾駅のとあるバーが周年パーティーを開催するので、お祝いに顔を出すそうだ。それは悪いことではないのだが、気後れするのもまた事実である。

雲がかかった朧月のような後ろ髪でミツルは近鉄八尾の街へと消えていった。

胸騒ぎがする。そして嫌な予感というものは、たいていの場合、的中する。

次号（12月15日付）に続く

近八尾行進曲

ニューヨーク市で活動するアンナ・ソロモン氏

韓国保健福祉省の韓明愛氏

里親制度

里親の理解深めるシンポジウム

親と一緒に暮らせない子どもを家庭で養育する「里親制度」について海外事例から学ぶ第２回Ｈ２Ｏサンタシンポジウム「こどもの虐待・貧困、里親制度～諸外国の取り組み」が10月22日、阪急うめだホール（大阪市北区角田町３）で開かれ、約200人が参加した。一般財団法人Ｈ２Ｏサンタと日本フォスターケア研究会の主催。

Ｈ２Ｏサンタと日本フォスターケア研究会

学生に対して「新聞は、論文やレポートを書くときには５Ｗ１（２）Ｈの原則で簡潔に書かれているので参考になる。まず新聞を読め」と強くすすめている。

さらに「国語の力をつける必要がある」と強調。国語が苦手だから工学部を選んだのに国語力といわれても…が実感だろう。田邉教授は国語力について「私は計算そのものは得意ではなかった。物事を論理的に考えるには国語のもつ思いや意味、語彙、感覚などを知っておく必要があると思う。物理や数学などの文章問題の内容をきちんと理解するのは国語力だ。業績を上げている理工学部の先生方は各種申請書などの書類を立派に書き上げている」と評価する。

ちなみに国際派の数学者・藤原正彦さんは「国家の根幹は、国語教育にかかっている」として「国語教育絶対論」（「祖国と国語」新潮文庫）を提唱する。

家庭では「お父さんは新聞で国語の勉強をした。国語の成績は良かった。時間を決めて少しでも読んでくれるといい、積もれば大きい。なぜ理系だったの？それはやってみたいという思いからだった」と子どもに話している。

論文指導のエピソードがある。ある学生の論文に赤（朱筆）を入れて真っ赤にして返却していた学生が、他校でＭＢＡを取得して報告にきた。「文章がしっかりと工手に書けていると指導教授から褒められました。先生に朱筆を入れてもらったおかげです」。指導者冥利に尽きる話だ。

今も子どもの頃と同じようにイデオロギーに関係なく事実を知るツールとしてこまめに地域情報を含め読んでいると話す。新聞は国語の教科書であり社会の教科書だといえる。（石河亮平）

日本の社会的養護は児童養護施設が中心で里親への委託は18％と低い。①ニューヨーク市で里親リクルートや研修を担当するアンナ・ソロモン氏、②ワシントンで里親支援ＮＰＯ法人を設立している粟津美穂氏、③韓国保健福祉省の韓明愛氏らが講演した。

米国の人口は日本の約３倍であるが、社会的養護の児童数は43万人と日本の10倍に近い。親から離れた子どもが健全な家庭に戻れるように実親のリハビリが行われる。里親に預けられている間も子どもは実親と週に一度面談する。

米国では人種や個人の宗教を尊重する立場から親族里親が重視されているのだ。

一方、血縁関係のない養育里親は自らの意思で決意し、トレーニングを受け、子どもの委託に当っては所の命令を守らないなど課題がある。

韓国では里親に支払う委託金という制度はなく、実子家庭と同じ子育て支援金が支給される。しかも所得が多い家庭にはこの支援金も支給されない。子育て支援金の額も豊富ではないため、韓国の里親は手弁当で経済的な負担を強いられる。

マッチングが行われる。

養育里親はあくまでも一時的な措置であり、実親に戻れない場合は養子縁組を目指す。そのため、養育里親への委託期間は平均19カ月となっている。養育里親は預かった子

新聞のすすめ

滋賀県大学工学部機械システム工学科・博士

田邉裕貴　教授

新聞週間（10月15日～22日）の最中に工学部の先生と話す機会があった。そこで企業が求める人材が話題になった。一般的だが「ロジカル（論理的）に考える力」「自分の考えをまとめる力」「分かりやすく表現する力」に話が及んだ。活字離れの著しい若者たちに新聞を読めと力説するのは国語力アップの問題でもあった。

「小さいころから新聞を読んでいたおかげで文章を書くことは得意で、苦になりません」と話すのは公立大学法人滋賀県立大学（彦根市八坂町2500）工学部機械システム工学科・博士（工学）田邉裕貴教授（49）＝写真＝である。

新聞から学んだこととして「ルビがあったので漢字を覚えたこと、文法をこねるのではなくシンプルで事実を淡々と客観的に書いていること」などを上げて勉強になったと顧みる。自身の学生時代は「下宿で3面記事を中心に必ず読んでいた」と懐かしむ。

学生に対して「新聞は、論文やレポートを書くときには５Ｗ１（２）Ｈの原則で簡潔に書かれているので参考になる。まず新聞を読め」と強くすすめている。

さらに「国語の力をつける必要がある」と強調。国語が苦手だから工学部を選んだのに国語力といわれても…が実感だろう。田邉教授は国語力について「私は計算そのものは得意ではなかった。物事を論理的に考えるには国語のもつ思いや意味、語彙、感覚などを知っておく必要があると思う。物理や数学などの文章問題の内容をきちんと理解するのは国語力だ。業績を上げている理工学部の先生方は各種申請書などの書類を立派に書き上げている」と評価する。

ちなみに国際派の数学者・藤原正彦さんは「国家の根幹は、国語教育にかかっている」として「国語教育絶対論」（「祖国と国語」新潮文庫）を提唱する。

家庭では「お父さんは新聞で国語の勉強をした。国語の成績は良かった。時間を決めて少しでも読んでくれるといい、積もれば大きい。なぜ理系だったの？それはやってみたいという思いからだった」と子どもに話している。

論文指導のエピソードがある。ある学生の論文に赤（朱筆）を入れて真っ赤にして返却していた学生が、他校でＭＢＡを取得して報告にきた。「文章がしっかりと工手に書けていると指導教授から褒められました。先生に朱筆を入れてもらったおかげです」。指導者冥利に尽きる話だ。

今も子どもの頃と同じようにイデオロギーに関係なく事実を知るツールとしてこまめに地域情報を含め読んでいると話す。新聞は国語の教科書であり社会の教科書だといえる。（石河亮平）

いい論文は国語力

国語力は新聞から

新聞を読むクセを

SDGsみらい塾鎌倉開講

生活密着テーマでアクティブラーニング

持続可能な開発目標として国連で2015年9月に採択された「世界を変革するための17の目標（SDGsに）」を市民レベルで学び、実戦に取り組む「SDGsみらい塾」が10月、神奈川県鎌倉市に誕生した。第1期生を募集中。

インターネットテレビ「東大阪新聞チャンネル」収録を始めた。特にマイクロプラスチックの子どもへの影響に強い関心を抱き、鎌倉市をはじめ各地の自治体に対して「使い捨てプラスチック」などの削減活動に積極的に関与してきた。

今回の「SDGsみらい塾」の目指すところは「持続可能な社会の構築に寄与する人づくり」と「持続可能な社会への変容の実現」である。

小島政行理事長

そのためにアクティブラーニング形式でSDGsの総論と17の各論の合計18テーマ（GOALS）について問題提起、アイディア出し、ソリューションへという講座内容。例えば「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「すべての人に健康と福祉を」「海の豊かさを守ろう」「陸の豊かさも守ろう」などのテーマに沿って研究機関や経済産業省、神奈川大学、NGO、NPOなどの専門家で、現実に現地で働いているリーダーが講師を務める。「本やネットで学習できない部分を教えてもらえる。きれいごとでないところを学べる」と小島政行さんは強調する。受講者の対象について「これからの世代を担う30～40代のサラリーマン層や中高生が学んで欲しい」と付け加えた。

2019年6月に大阪で開催される20カ国・地域（G20）首脳会議では主催国宣言がされるだけに、地域密着の活動が全国に広がることを期待したい。

（石河亮平）

＊SDGs（Sustainable Development Goals）

＊11月22日（木）放映19：00～19：30「使い捨てプラスチックの現状」

塾の運営

平成30年度1期カリキュラムは11月24日（土）から来年7月27日（土）まで全9回。受講料は4千円（前納）、募集人員は20人。中高生は半額、5人募集。各回参加は空席ある場合のみ1回500円。7回以上参加で「修了証書」授与、会場は鎌倉市御成町の鎌倉ＮＰＯセンター。

問い合わせ先

特定非営利活動法人鎌倉ユネスコ協会
石田喬也理事長
E-mail:smj@kamakura-unesco.or.jp
事務局：一般社団法人SDGs活動支援センター
TEL0467―53―7494　FAX0467―53―9309

広域

詩の窓

記録

丁章（東大阪市在住の詩人）

ザイニチがあまりにも未期的だから
はじめから記録を意識しなきゃならない
記録として遺すことを意識して書くと
美しさにかまっていられないときがある
それに美しくないもののほうが
かえって美しかったりもする
美しいほうが遺るという説もあるが
見かけ倒しの美しさだけが遺るようなら
そりゃ何の中身も意味も無いよ
とにかく美しさに酔っていられるときじゃないんだ
それほどまでに危うい
ザイニチの存在

記録となった文学作品の
その次の運命については
偉大な詩人もどうやら
気づかなかったらしい
何代もの世代を経て生き遺った記録が
いつしか
神話に
化すということを
偉大な詩人が言っていた
すべての文学作品は
人に相手にされなくなって
やがてその存在を失う
最初は愉しまれ　次に技術を教え　最後は記録となる
これが作品の運命だと

記憶は一代、記録は末代

自分史・社史出版のお手伝い

地元八尾の出版社
だからこそできる
きめ細かな本作り

永続する
会社には
社史がある

著者と編集者が二人三脚で本作り
株式会社 ドニエプル出版
TEL.072-926-5134
〒581-0013 八尾市山本町南6-2-29　FAX.072-921-6893
ドニエプル出版　検索

八尾柏原版
八尾柏原支社
八尾市山本町南6－2－29
TEL 072－926－5134
FAX 072－921－6893

由義寺跡　国史跡指定記念シンポジウム

活発に意見が交わされたパネルディスカッション

マンガ家の里中満智子さん

幻の由義寺発見～称徳天皇と道鏡が夢見た風景

幻の寺「由義寺」の塔基壇が八尾市東弓削遺跡で発見されたのは2017年2月、そして2018年2月に由義寺跡として国指定史跡となった。1辺約20メートルの正方形の基壇部から西の京のシンボルとして七重塔がそびえていたとみられている。仏都建設に携わった称徳天皇（718～770年）と弓削道鏡（？～772年）。

道鏡に対する悪僧のイメージは、歴史学者らの研究によって新しく塗り替えられた。

由義寺跡の国史跡指定記念シンポジウム「幻の由義寺発見～称徳天皇と道鏡が夢見た風景」が10月28日、午前10時～午後4時まで開催された。

熱心な歴史ファン約400人が会場のプリズムホール・小ホール（八尾市光町2）に集まった。八尾市制70周年記念事業として八尾市教育委員会・八尾市が主催。

八尾市制70周年記念事業

平成30年（2018年）の由義寺跡塔基壇の調査報告では瓦洗いなどの手伝いをした大阪府立八尾翠翔高校2年生の3人が紹介された。続いて、吉川真司京都大学大学院教授が「由義寺と由義宮～仏都としての西京」をテーマに、文献歴史学者の立場から年表に基づき講演した。

里中満智子さんは「歴史上悪い人を読み解くと、そうではない人が多い。ラブロマンスだったと思いたい。皆になるほどなぁという認識があった」「遺跡はそのままにしておきたい。バーチャルリアリティー技術で当時の都の様子が映像で再現できるような仕掛け〝アタッチメントを〟（愛着）が重要」と指摘した。

田中誠太市長は「宇佐市・和気町・八尾市が交流して新しい道鏡の研究では、サンスクリストの経典研究を行った学問僧であると同時に、葛城山中で修業して山岳仏教にも通じ、如意輪法や宿曜秘法を修めたとされている。もちろん女帝と不適切な関係であったわけではない」という。また、宇佐八幡宮神託事件（769年）についても「道鏡主導ではなく称徳主導であることが学会でほぼ一致した意見」と書かれている。

1300年前の古代八尾のロマンには底知れぬ魅力が溢れている。まだまだある謎の解明に期待が高まる。

（石河亮平）

パネラーが登壇した。発言要旨は次の通り。

吉川真司教授は「道鏡は怪僧とは思わない。仏教に帰依していた称徳天皇の言葉が多く残っていることから、称徳天皇は専制君主であり能動性が強かった」と今までの評判をきっぱりと否定した。

和泉大樹さん（阪南大学准教授）は「文化財から観光行政を進めてきた。地域資源から活用資源へというプロセスが大切で、南アルプス市を例に公式看板や小学生の情報を発信するという現できるような仕掛けがあってもよい」と提案した。

近江俊秀さん（文化庁・文化財調査官）は「河内平野は生産性の高い土地柄だった。八尾には歴史的面白さがたっぷりある」「奈良時代の仏教信仰のピークで到達点であったのが由義寺で古代仏教史の中で重要だ」と歴史的意義を評価した。

終了後、取材に応じた女性は「偶然にも大分県宇佐市（幡宮）生まれだった。現在は東大阪市に住む小部ヨシ子さん（72）は「私は宇佐神宮のすぐそばで生まれ、子どもの時から道鏡は悪僧といわれ生臭坊主だと聞いていました。このシンポジウムにすごく関心がありました。今回、この年になって初めて弓削道教のイメージが変わりました。同郷の友だち十数人に今日の話を伝えたいと思います」と興奮気味に話した。

近年、日本史の歴史研究が進み、塗り替えられている。道鏡・悪僧説に関して中公新書編集部編「日本史の論点」（中公新書）では、「悪僧のイメージが強い。だが、近年の研究では、サンスクリストの経典研究を行った学問僧であると同時に、葛城山中で修業して山岳仏教にも通じ、如意輪法や宿曜秘法を修めたとされている。もちろん女帝と不適切な関係であったわけではない」という。また、宇佐八幡宮神託事件（769年）についても「道鏡主導ではなく称徳主導であることが学会でほぼ一致した意見」と書かれている。

1300年前の古代八尾のロマンには底知れぬ魅力が溢れている。まだまだある謎の解明に期待が高まる。

（石河亮平）

悪僧ではなかった道鏡
幻ではなかった由義寺
72歳、この年になって道鏡を見直した

恒例 ドビ流し
どろんこになりながら

いきいき八尾環境フェスティバル2018が10月27日と28日の2日間開かれた。主催は環境アニメイテッドやお。八尾市、大阪経済法科大学、アリオ八尾が共催。

後援は環境省近畿地方環境事務所、大阪府、八尾市教育委員会、八尾市グリーン交通・配送推進協議会、八尾商工会議所、八尾産業クラブ連合会、大阪府中小企業家同友会八尾支部。

27日はアリオ八尾（八尾市光町2）で、28日は大阪経済法科大学花岡キャンパス（八尾市楽音寺6）と八尾市立しおんじやま古墳学習館（八尾市大竹5）でバラエティーに富んだプログラムが用意された。

大阪経済法科大学花岡キャンパスでは恒例のドビ流し（池干し）が行われ、子どもたちがどろんこになりながら「掻い掘り」で貝掘り」を楽しんでいた。

「掻い掘りで貝掘り」を楽しむ子どもたち

いきいき八尾環境フェスティバル2018

アリオ八尾
大阪経済法科大学
しおんじやま古墳学習館

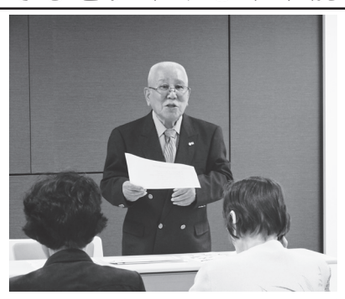
八尾市各所で認知症予防セミナー

予防医療推進協会
大阪行政書士会 東大阪支部

高齢者の5人に1人が認知症を発症している。それに伴い、八尾市内でも各所で認知症予防セミナーが開かれている。

10月20日は一般社団法人予防医療推進協会（松茂良興治理事長）によるセミナーがマナビックス80（八尾市本町2）で開かれた。松茂良理事長（79）が食事などの生活面から認知症予防について話した。さらに、自身の体験をもとに帯状疱疹についても触れた。

その後、森井隆喜理事（46）が日常生活の中で簡単にできるメモをとっていた。


自らの体験をもとに講演する松茂良興治理事長

運動を実演する森井隆喜理事

最新情報に基づいて講演する柴谷匡哉さん

団法人予防医療推進協会（松茂良興治理事長）によるセミナーがマナビックス80（八尾市本町2）で開かれた。松茂良理事長（79）が食事などの生活面から認知症予防について話した。さらに、自身の体験をもとに帯状疱疹についても触れた。

その後、森井隆喜理事（46）が日常生活の中で簡単にできるメモをとっていた。

10月28日は大阪行政書士会東大阪支部（樋口浩史支部長）主催の認知症予防セミナーが八尾市文化会館プリズムホール会議室1（八尾市光町2）で開かれた。

参加者は楽しみながら体を動かしていた。

10月28日は大阪行政書士会東大阪支部（樋口浩史支部長）主催の認知症予防セミナーが八尾市文化会館プリズムホール会議室1（八尾市光町2）で開かれた。

参加者は楽しみながら体を動かしていた。

10月20日は一般社団法人予防医療推進協会（松茂良興治理事長）によるセミナーがマナビックス80（八尾市本町2）で開かれた。松茂良理事長（79）が食事などの生活面から認知症予防について話した。さらに、自身の体験をもとに帯状疱疹についても触れた。

その後、森井隆喜理事（46）が日常生活の中で簡単にできるメモをとっていた。

第55回定期演奏会
八尾フィルハーモニー交響楽団創立30周年記念

熱演する氏橋啓司さん

氏橋啓司さん熱演

八尾フィルハーモニー交響楽団の創立30周年記念・第55回定期演奏会が10月28日に八尾市文化会館プリズムホール・大ホール（八尾市光町２）で開かれた。佐々木宏さん指揮でベートーベンの歌劇「フィデリオ」序曲作品72—b、ブラームスのヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲イ短調作品102、シューベルトの交響曲第８（９）番ハ長調D944「ザ・グレイト」を演奏。

八尾市在住のチェリスト氏橋啓司さん、ヴァイオリニスト吉岡克典さんの熱演に会場が沸いた。

くつろぎ画廊 Cafe PRIMAL
アリオ八尾に10月27日～1月20日オープン
3カ月限定で

おしゃれな空間に絵画作品や書籍、画集が展示されている

10月27日から1月20日までの3カ月間限定のカフェ「くつろぎ画廊Cafe PRIMAL（プライマル）」がアリオ八尾（八尾市光町2）にオープンした。

店内は絵画作品が、また書籍や画集も展示されている。美味しい珈琲を飲みながら、ゆくっりとした時間を過ごせる空間がデザインされている。

アリオ八尾は週末には1日に4万～5万人の来場客が訪れる。家族連れの多いショッピングモールとして全国的にも有名だ。たまの休日、仕事に疲れたお父さん、子育てに一息入れたいお母さんたちのサードプレイス（職場：ファーストプレイス、家庭：セカンドプレイス）というテーマで来場客を迎える。

厳選された豆を使用したハンドドリップコーヒー（400円）に全国の信頼ある農家から仕入れたこだわり野菜のベーグルサンド（500円）、さらにはスイーツも充実している。また、ワークショップスペースもありアイシングクッキー体験（500円）などで子どもたちが遊んでいる間に安心して親がくつろぎの時間を過ごすことができる。

注目は注文してから豆を挽くところからはじまるハンドドリップコーヒーだ。1杯1杯丹精を込めてドリップするコーヒーはここでしか味わうことができない。1つ穴のドリッパー（コーノ式）で抽出することにより、まろやかですっきりとした口当たりが特徴的。

湯の1投目でしっかりと豆を蒸らしじっくりと時間をかけて丁寧に抽出することで深みのある味わいと長い余韻を引き出す。一度飲んでから病みつきになったPRIMALコーヒーのファンも多数いる。アリオ八尾を訪れたならば、味わう価値がある。

また、今後はコーヒー講座や読書会、八尾に所縁のある有名人を招いてのトークショーなど興味深いイベントも開催予定だという。

「くつろぎ画廊Cafe PRIMAL」は10月27日～翌年の1月20日の土・日・祝、10時～19時までの営業だ。

連載小説
ウクライナを歩く ―― 113
小野元裕

PanasonicとDAIKINの電気製品が至る所に

次々と案内される部屋はどれも重厚で目を見張った。ワインを飲む部屋、お茶を味わう部屋、焼肉をする部屋、映画観賞用の部屋…。見た目は重厚だが、よく見ると悪趣味に満ちていた。

焼肉をする部屋に入り、黒光りしたワニが目に入ったときは、思わず仰け反った。丸ごと皮を剥がされたワニがテーブルの上で眠っている。女たちはキャキャと声を上げながらワニの硬い皮に手を伸ばしている。なかには頬ずりしながらスマホで自らを撮影する者までいるから、驚きだ。女の脳と男の脳は決定的に違うことを改めて思い知らされる。

30畳ほどある映画鑑賞用の部屋には、リクライニングチェアがいくつも据えられている。男たちは早速リクライニングチェアに体を埋めながら、満足げな表情を浮かべている。正面の大きなテレビ画面を

エアコンもPanasonicなのかと目を凝らすと、こちらはDAIKINだ。どの部屋もどの部屋もことごとくDAIKINだ。他のメーカーは一つもない。

PanasonicとDAIKINの電気製品が至る所に…。日本にいるような不思議な錯覚に陥った。

PanasonicとDAIKINはヤヌコーヴィチにどれほど儲けさせてもらったのだろうかという浅ましい考えが脳裏に浮かび離れない。それとも、儲けるどころか、値切りに値切られて辛酸を嘗めさせられたのだろうか。あるいは、金の装飾と同じように、中に入った業者がヤヌコーヴィチを出しぬき、PanasonicとDAIKINを絞りに絞って私腹を肥やしたのだろうか。

黒マントのガイドに質問をぶつけると、首をすくめて「分かりません」という表情を見せるだけだった。

よく見ると、Panasonicという銀文字が光っている。

その後、案内された部屋に据え付けられてあるテレビを注意深く見ると、ことごとくPanasonicだ。他のメーカーのものはない。

八尾フィルハーモニー交響楽団 第55回定期演奏会 氏橋啓司さん熱演
八尾市制施行70周年記念 八尾市文化会館開館30周年記念 八老劇団創立45周年記念
河内版 源氏物語
作・演出 浜田澄子
公演日 平成三十年十一月二十四日・二十五日
PRISM HALL
河内版 源氏物語
八尾市制施行70周年記念
八尾市文化会館開館30周年記念
八老劇団創立45周年記念
八尾在住の60歳以上の老人だけのアマチュア劇団「八老劇団」の創立45周年の記念公演。
舞台装置、小道具、衣装などすべて団員の方々による手作り。
「寝たきりより、出たきり」を合言葉に、派手な衣装を身にまとい、拍手と喝采をあびることで最高にエキサイトした団員の姿を、ぜひプリズムホールでお楽しみください!!　作・演出　浜田澄子
■公演日程
平成30(2018)年 11月24日(土)・25日(日)
開演時間　24日 14：00 開演(開場 13：00)
25日 11：00 開演(開場 10：30)
14：00 開演(開場 13：00)
■会場　八尾プリズム小ホール(八尾市文化会館)
(近鉄大阪線八尾駅下車東へ徒歩5分)
■入場料　無料
PRISM HALL 八尾市文化会館
チケットのお求めお問い合わせ
プリズムホールチケットカウンター ☎ 072-924-9999
プリズムホールウェブサイトチケット　http://prismhall.jp/

キッチン・トイレ・バス・洗面のリフォームはもちろん、畳の表替えや、外装・耐震補強など、お家のあらゆるご相談に応じます。
サンコー物産株式会社
お問い合わせはお気軽に TEL06-6533-1271
本社　〒550-0015　大阪市西区南堀江4丁目33番29号
E-mail：info@sankobussan.co.jp
http://www.sankobussan.co.jp/
東京営業所 名古屋営業所 大阪営業所 和歌山営業所 福岡営業所

栄養補助食品
天然素材100%使用
グリーンミネラル
自然の微量元素がいっぱい
スギナ ヨモギ モロヘイヤ
粒タイプ　100ｇ
￥3,240（税込）
（有）ライヴグリーン
TEL 072-923-5517

第７回世界に羽ばたけ『夢』スピーチコンテスト
支援金額：120万円
【本選開催日時】平成31年10月 14時～17時30分
本選開催場所：大阪商業大学ユニバーシティホール蒼天
住所：大阪府東大阪市御厨栄町4-1-10
主催：一般財団法人青少年夢応援隊
協賛：株式会社サンクレスト
後援：大阪府、東大阪市
公式サイト：http://yumeouentai.com
【開催趣旨】
将来の夢や目標があるが、経済的支援を必要とする若者が自身の「夢」をテーマにスピーチを行い、受賞者を選定、支援金権利を授与いたします。
【応募資格】
大阪在住または在学・在勤の16歳以上25歳までの青少年（1994年4月2日～2004年4月1日生まれの方）
【出場者一次選定】
作文を基にスピーチコンテスト本選出場者10名を選考いたします。
①公式サイトより「出場申込書」をダウンロードし、必要事項を記入
②「夢」というテーマで作文を書いていただきます。
また、受賞した際の支援金の使途も記載ください。
※原稿用紙（400字詰め）にて3枚まで
※手書き、パソコン等問わない
③応募方法：「出場申込書」と「原稿」を併せてメール又は郵便でお送りください。
※「出場申込書」と「原稿」はHPよりダウンロードしてください。
※メールを送る際の件名は「スピーチコンテスト応募」としてください。
④送り先：郵送の場合　宛先：大阪府東大阪市南上小阪12-42 一般財団法人青少年夢応援隊　スピーチコンテスト企画係宛
メールの場合　info@yumeouentai.com
問い合わせ☎06-6725-0511
⑤原稿締切：平成31年9月
東大阪の企業　株式会社サンクレストが応援しています